

確実、効果的な実施方法を学ぶ

シンポジウムでは舞鶴市の野村氏が事業の成果発表

特定健診・保健指導の実施に向けた近畿ブロック研修会



厚生労働省、国民健康保険中央会主催の特定健診・保健指導の実施に向けた近畿ブロック研修会は8月9日、大阪市の大阪天満研修センターで、近畿地方の府県、市町村、国保組合など国保関係者345名（うち京都府69名）が参加して開催された。

主催者を代表して厚生労働省国保課在宅医療・健康管理技術推進専門官の西本美和氏と、国保中央会レセプト電算部長の細田勝巳氏が挨拶した。

講演は、厚労省専門官の西本氏が「特定健診・保健指導等の準備と効果的な実施方策について」と題して行った。同氏は、来年度からの特定健診・保健指導を確実に、また効果的に実施する必要があることから、健診・保健指導の円滑な実施に向けて作成された手引きをもとに説明し、「スケジュールに従って、遅れることなく実施してほしい」と語った。また、細田氏は現在、中央会で開発している管理システムについて、9月初旬には各連合会を通じて情報提供すると述べた。

シンポジウムは、「国保ヘルスアップ事業等事例報告を通じて」をテーマに、龍谷大学社会学部教授の安西将也がコーディネーターになり、京都、大阪、滋賀の自治体担当者が発表、西本、細田両氏が助言した。

このなかで舞鶴市保険医療課管理係長の野村直司氏は、生き生きトレーニング教室とすこやかヘルスアップ教室の2本立てで、実施内容、評価方法、評価結果などを発表した。生き生きトレーニング教室では参加者が388人あり、体脂肪率、体力年齢など体力、形態が向上した人たちが多かったと述べた。

これらの発表に対して会場からは多くの質問や意見が出され、参加者の関心の高さを示していた。

